

福井県立美術館特別展
初公開 犬追物図屏風と江戸絵画名品展

【趣旨】

犬追物(いぬおうもの)は、疾走する犬を馬上から射て当たった数を競う競技です。武士の馬術と弓術の鍛錬として、流鏑馬(やぶさめ)・笠懸(かさがけ)とともに「馬上三物」(ばじょうみつもの)と呼ばれて重要視され、鎌倉時代以降、室町時代にかけて盛んに催されました。福井においても室町時代の越前の国主である朝倉氏や、若狭の武田氏がこれを行っています。

その様子を屏風に描いた犬追物図屏風は、資料から室町時代にまで遡ることができますが、現存作品としては桃山時代から江戸時代にかけての20点ほどの作例が確認されています。

当館では昨年度、これに加わる新たな犬追物図屏風を収集しました。県内で長く所蔵され、ほとんど公開されることのなかった作品です。桜咲く馬場での犬追物とそれを見物する人々を、6曲1隻の金地の画面に描いた華やかな屏風で、17世紀初め頃に制作されたと考えられます。しかも今は失われた桃山時代の絵師、土佐光吉による犬追物図屏風の図様を受け継ぐ希少な作例といえるものです。さらに調査の過程で、秋の光景を描く兵庫県・尼崎市立歴史博物館所蔵の屏風と対をなす作品であることも明らかとなりました。

当館の作品は傷みが激しいことから、収集後ただちに修復を行うことになりました。そしてこの度ようやく作業が完了、これを初めて公開するため開催するのが本展覧会です。離れ離れとなった尼崎市所蔵の作品とは、一世紀以上の時を経て奇跡の再会を果たします。また県内所蔵の関連作品や馬具などをあわせて紹介、さらに岩佐又兵衛、葛飾北斎など館蔵作品を中心とする江戸絵画の名品など約30点を展示し、犬追物図屏風と江戸絵画の多彩な魅力をご覧ください。

- 会 期 : 令和2年11月23日(月・祝)～12月20日(日) ※会期中無休
- 開館時間 : 午前9時から午後5時(入館は閉館30分前まで)
- 観 覧 料 : 一般・大学生500円、高校生200円、中小生100円
※20名以上の団体は2割引。
※学生の方は学生証の提示が必要です。
※障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は半額。

●関連行事

【講演会】(当館講堂にて・聴講無料・先着40名)

11月29日(日) 午後2時から

講師 : 小笠原 清忠氏(弓馬術礼法小笠原流 三十一世宗家)

演題 : 「小笠原流弓馬術の世界」

【学芸員によるギャラリートーク】(展示会場にて・要観覧券・先着20名)

12月5日(土)、12日(土) いずれも午後2時から

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、記載内容を変更する場合があります。またご来館の際は、マスク着用および手指消毒など感染防止にご協力ください。

【お問い合わせ】

福井県立美術館

学芸員 戸田浩之

〒910-0017 福井県福井市文京 3-16-1

Tel : 0776-25-2451 fax : 0776-25-0459

mail:h-toda-4b@pref.fukui.lg.jp